

ガバナー月信



月信 9月号

- | | |
|-----------------------------------|---------------------|
| ① ガバナーメッセージ | ⑪ 会員数報告 |
| ② 青少年交換プログラム募集開始 | ⑫ 地区主要行事予定 (9月・10月) |
| ③ 危機管理と青少年交換委員会 | ⑬ 新入会員紹介・訃報 |
| ④ 地区補助金オリエンテーション報告 | ⑭ コーディネーターニュース |
| ⑤ ロータリー地域協働ネットワークセンター
センター長 挨拶 | ⑮ ハイライトよねやま |
| ⑥ 地区会員増強セミナー報告 | |
| ⑦ 地区青少年奉仕委員長 挨拶 | |
| ⑧ 米山記念奨学制度説明会報告 | |
| ⑨ 国際奉仕委員会委員長 挨拶 | |
| ⑩ 三条 RAC 創立 50 周年記念式典 | |



国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度

高橋ガバナー事務所

〒950-8053
新潟市中央区川端町 6-53 ホテルオークラ新潟 1F
TEL : 025-222-2561 FAX : 025-222-2565



国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 ガバナー
高橋 秀樹 (新潟 RC)

8月4日から5日にかけて県北地域を襲った豪雨により甚大な被害が生じました。被災地の皆様に心からお見舞い申し上げます。今回のガバナーメッセージでは、当該災害についてのロータリーの初動対応を御報告すると共に、今後の対応について地区の皆様をお願いをしたいと思います。

去る8月4日木曜日、警報発令を受け、被災地として予想される第一分区各クラブに向け、ガバナーとロータリー地域協働ネットワークセンター長名で、警報への注意喚起のメールを配信いたしました。翌日5日金曜日にかけて被害の様子が明らかになってまいりましたので、同日午前中に第一分区のガバナー補佐と各クラブに宛ててメールを配信し、お見舞いを申し上げますと共に、被災状況についての情報と必要な支援について連絡してくれるようお願いいたしました。

この時既に、荒川地区と関川地区のロータリアンが出動しており、自治体等行政の業務が行き届かない部分について、地域の住民の方々のために奮闘しておられました。中条胎内ロータリークラブの会員の方々は、自分たちも被災者であるにもかかわらず、磯部会長のリーダーシップの下、地域の方々の住宅からの泥出し、畳上げ、膨大なゴミの片付けなど行っておられました。



翌日6日土曜日に、現場のロータリアンから連絡が来ましたので、すぐさま支援内容の相談を行い、第一分区の各クラブに向け、ガバナー補佐の須貝さんを通して支援要請を行いました。

7日日曜日には、他の分区からも応援に駆け付けるロータリアンがおられました。三条ロータリークラブの関川博さんは、社員を率いて現場に向かわれました。その時の写真を掲載いたしますのでご覧ください。個人情報に関わる住宅内の写真などは割愛させて頂きましたが、現場の悲惨さや、どこまで水が上がってきたかなど、生々しい様子が御覧いただけると思います。

週が明けて8日月曜日に、漸く金融機関を利用することができ、地区から緊急資金援助として中条胎内ロータリークラブと岩船ロータリークラブに20万円ずつ送金させていただきました。これは、自治体で調達不足だった消毒用石灰の購入費などにあてられ、地域の方々に配布されました。また、同日夕方には、第一分区各クラブの御尽力により、飲料水120ケースが被災地に届けられました。この他にも、中条ロータリークラブからは、大量の雑巾が被災地に届けられたとのことでした。

上記の他にも、様々な方々が被災地のために多大な御尽力をなさっておられると思います。心から敬意を表したいと思います。

我々は、かつて経験してきた様々な災害から多くの教訓を得てきました。例えば、被災地の本当のニーズと、それを援けようとする方々が提供するニーズとを、きちんと合わせていくことの大切さなどがあります。被災地の復旧復興のため、これからも各種情報に注意し、必要に応じて支援を提供していきたいと思います。その際には、ロータリー地域協働ネットワークセンターの力を最大限に活用しつつ、地区のロータリアンの皆様全体からの御協力を頂くこともあろうかと思えます。何卒御理解、御支援のほど宜しくお願い申し上げます。





青少年交換プログラム募集開始の思い。 ロータリー青少年交換でできること

国際ロータリー第 2560 地区

2022-23 年度 青少年交換委員会

委員長 坂上 彰平 (豊栄 RC)

我々青少年交換委員会は、青少年交換で、子供達がいろいろな可能性を広げる事を知っています。自分で考え、率先して行動し、語学やその国の文化、その国の考え方を学び友達を作り、交流を深めてくれています。

その交流が世界平和の礎になると、私は思っております。

言わば、ロータリーの交換留学生は、親善大使なのです。

また、クラブ活動の礎である5つの奉仕部門において、国内外で奉仕活動を実施します。奉仕部門の一つである「青少年奉仕」は、指導者育成プログラムを通じた青少年のエンパワメントを重視しています。

ロータリー青少年交換は、ロータリーが提供する数多くの青少年指導者育成プログラムの一つです。

子供達が大きな夢を持って留学に応募して頂いておりました。この2年間残念ながら COVID-19 の影響により、募集すらできませんでした。この間も子供達の成長は止まりません、留学の希望を持って要る子供達は残念ですがロータリーの交換留学には、参加できませんでした。

ロータリーにとっても大変な損失であると思います。

この間、ROTEX が増えていない状態なのですから。東京北 Exchange ロータリー衛星クラブで ROTEX のみで構成されている世界でも唯一クラブがございます。青少年交換プログラムで交換留学した子供達が成長し ROTEX を経てロータリアンに成って頂けるこの現実、大変良い事ではありませんか。

青少年交換プログラムに参加したクラブ、ホストファミリー、地域社会、学生の間に関係にわたる関係を築く事になるのです。

昨年度は、募集を断念致しましたが、この先も世界平和を少しでも実現できると信じ、青少年交換プログラムを続けていきたいと考えております。

また、第 26 回日本青少年交換研究大会 (新潟会議) を 2023 年の 6 月に開催いたします。別に実行委員会が立ち上がっておりますが、委員会としても協力をして行きたいと考えております。来日している受入学生、これから留学する派遣学生、そして関係するロータリアンが日本中から集まり、当プログラムが益々発展していく為の研究大会が毎年開催されております、本来の目的は当然ですが、この機会に新潟の良さを PR し、全世界に新潟の素晴らしさを知っていただきたいと考えております。



危機管理と青少年交換委員会

国際ロータリー第 2560 地区

2022-23 年度 青少年交換委員会

委員長 坂上 彰平 (豊栄 RC)

青少年交換委員会には、危機管理が常に付いて回ります。

先ずは子供達が、安全に留学生活が出来るにする為、交通災害、自然災害等、ハラスメント、個人情報保護、等様々な危機管理を考えなければなりません。

東日本大震災 (3.11) が発生した後、留学生の安否確認が直ぐには出来なかったそうです。

地区及びクラブが打撃を受け連絡が取れなかったそうです。

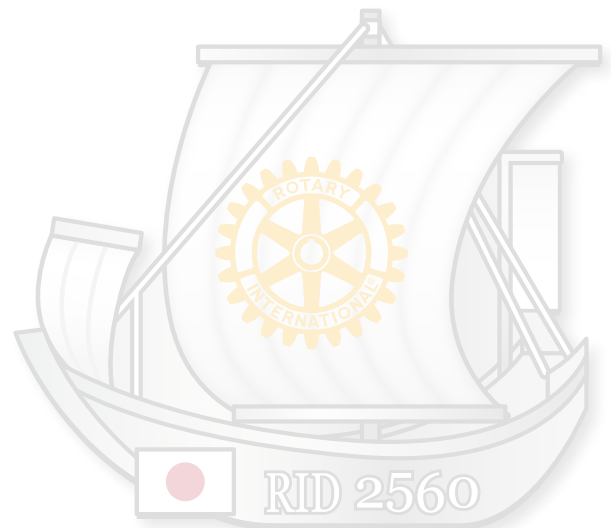
そのため、今では国際ロータリー第 2560 地区、2840 地区、2550 地区、2610 地区で災害時相互支援協定書を交わし、災害時に相互的に支援し合うことに合意しております。

経験と教訓から YESS というソフトを活用して学生達の情報を供用していますが、想定できない事が起きます。

それでは遅いのです。

常にそうなったらどの様に対処するかを考え危機管理をしていかなければいけません。

課題は多く山積しておりますが、子供達の健康と安全を守る為、危機管理委員会と共に考えて行きたいと思います。





2022-23 年度地区補助金 オリエンテーション開催のご報告

国際ロータリー第 2560 地区

2022-23 年度 財団委員会

補助金委員長 **稲葉 忠克** (新潟西 RC)

7月23日(土)に地区補助金オリエンテーションが、万代シルバーホテルにて開催されました。前週からの県内のコロナ感染急増を踏まえ時間短縮(13:30~14:30)とソーシャルディスタンスを保った上での開催となりました。前年度はオンライン形式での開催であった為、今年度は是非とも対面での開催を望んでいました。

また、7月21日(木)無事財団本部よりプロジェクトの許可申請が下りたことも併せてご報告できました。

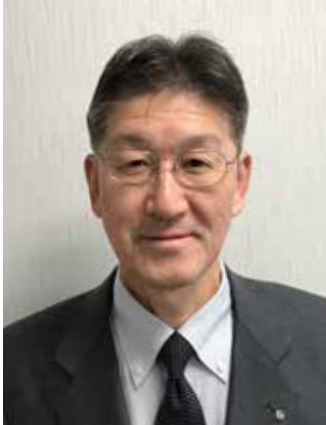
今年度の申請35クラブのプロジェクトは、地域社会発展15、教育13、保険4、環境3、その他1でした。

オリエンテーションの目的として地区補助金の適切な運用方法と最終報告書提出までの書類の記入方法及び間違いやすい点を、村上ロータリークラブ様の事例(イタヤカエデ植樹100年先の未来)をもとに説明いたしました。

※コロナ禍によりプロジェクトの中止や目的の変更などが生じた場合については、事前に補助金委員担当者への連絡をお願い致します。補助金委員もプロジェクトの実行~最終報告書までのお手伝いをさせていただきます。

最後に、水本資金管理委員長より最終報告作成の留意点、銀行口座の継続使用(口座解約せず、次年度以降も利用できる)についてご説明いただきました。





身近に迫る災害を 目の当たりにして

ロータリー地域協働ネットワークセンター
センター長

清水 信博 (高田東 RC)

今年度、高橋年度で2年目のセンター長を仰せつかります清水です。2560 地区内各クラブ会長の皆様、連絡員をお引き受け頂いたメンバーの皆様、1年間どうぞよろしくお願い致します。

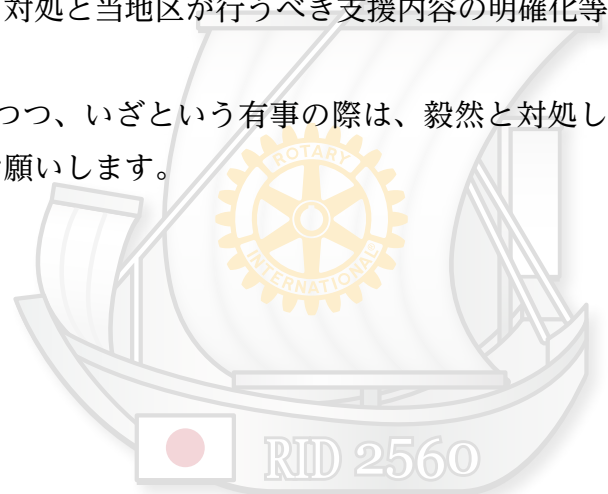
単年度制であるロータリーの組織運営の中では、数年間組織長を続ける事には違和感があると思われませんが、当センターは、地区内クラブ交流を推進していく事はもとより、ロータリークラブ外の防災に関する各団体との関係も重視して参りました。これは、各団体の組織が変わらないのに、ロータリーメンバーの入れ替わりが激しいと深い交流が出来ないという事です。お互い協力し合う相手の顔がわからなかったり、会話をした事が無いというのでは、いざ有事の際、協力体制になりません。平時からの交流が、いざ役に立つのです。

さて、高橋年度スタートして間もない8月4日に「新潟県下越地方大雨特別警報」が発表され、特に村上市、胎内市、関川村などに甚大な被害が発生しました。被災された方々にお見舞いを申し上げますと共に1日も早い復旧をお祈りするばかりです。

この災害に関して、第1分区須貝ガバナー補佐を中心に、各クラブの会長をはじめとするメンバーの皆様の献身的な復旧活動に対して敬意を表すとともに感謝申し上げる次第です。また当2560地区との災害時情報交換も活発に行われ、地区では高橋ガバナー、山田地区幹事をはじめとする4役の皆様への対応にも感謝申し上げます。改めましてありがとうございました。

しかしながら、問題点もあらためて浮き彫りになりました。当センターと地区との分担すべき内容の不明確さや被災された地域災害対策本部が進めるべき対処と当地区が行うべき支援内容の明確化等などです。今後、改めて整理、明文化して参ります。

この1年今後、大きな災害に見舞われない事を祈りつつ、いざという有事の際は、毅然と対処して参りたいと思います。どうぞ、高橋年度もよろしくお願い致します。





地区会員増強セミナー報告

国際ロータリー第 2560 地区

2022-23 年度 会員増強・戦略計画・広報委員会

委員長 石本 隆太郎 (新潟 RC)

コロナ禍の中、3年ぶりに開催

去る 7 月 30 日 (土)、ホテルオークラ新潟において、2022-23 年度地区会員増強セミナーを開催させていただきました。新型コロナウイルスの蔓延もあって、3 年ぶりの開催でありましたが、7 月 21 日の新潟県内における新規感染者が初めて千人を超え、28 日には 3,247 人が感染というマスコミ報道や、直前になって“濃厚接触者になったため、急遽、欠席する！”等の連絡が入ったりして心配いたしました。

しかし、地区内クラブの現状から一刻の猶予も出来ないとの強い思いもあり、あえて“対面形式による開催！”に踏み切りました。

高橋ガバナーはじめ、米山ガバナーエレクト、ガバナー補佐、クラブ会員増強委員長の皆様多数よりご出席いただき、予定通り実施できました。

その後、“55 名の出席者全員から、感染したとの情報は無い！”と事務局からの報告も頂き、ホッとするとともに、皆様のご協力に心から感謝しております。

経営戦略の第 1 段階：クラブの現状把握・分析

今回の会員増強セミナーは、3 年目に入った新型コロナの影響に続き、今年 2 月からのロシアのウクライナ侵攻により、世界中の政治経済の先行きが不透明になっており、ロータリー活動も大きく制約を受け、会員増強の面からも難しい局面に立たされている中での開催でありました。

地区内各クラブや地区が、それぞれの目標とビジョンの達成に向けて行動するには、戦略計画が必要であると言われておりますが、その第 1 段階として、地区内各クラブの現状を把握・分析することが前提条件となります。

高橋ガバナーより会員増強・戦略計画・広報委員長を拝命し、17 年前の 2006-07 年の中条ガバナー年度に地区会員増強委員長を拝命した際に考案した「地区内クラブ・会員数対比表＝会員増強・クラブ別健康診断書」を、3 月 26 日開催の PETS、5 月 21 日開催の地区研修協議会の参考資料として、各クラブ事務局宛に配信いたしました。

クラブ会長、会員増強委員長は事前にご覧いただいたと存じますが、今回の会員増強セミナーは、新資料を加えて、第 1 段階における“総仕上げ”という位置づけで開催いたしました。

基調講演

午前の部では、午後からのブレインストーミングの司会を担当していただくガバナー補佐を対象としたオリエンテーションを実施するとともに、高橋ガバナーを囲んでの懇談会を開催し、各分区毎の会員増強の現状把握と、分区再編等についての意見交換を行うことができました。

午後の部においては、委員長の私より、前述した「地区内クラブ別会員増強・健康診断書」や、事前配布した「新潟県・国勢調査の人口推移表」を基に、各クラブの過去30年間における会員増強の推移等について基調講演をさせていただきました。資料の詳細説明等は時間的制約もあり、地区研修協議会でのビデオ撮影時のスピーチ原稿を事前配布し、補足いたしました。

ここで注目していただきたいことは、昨年の高尾ガバナーと今年の高橋ガバナーの7月1日現在の会員数比較です。地区内54クラブの内、会員純増クラブが18クラブ、会員減少クラブが30クラブ、±ゼロクラブが6クラブとなっており、2年連続で会員減少クラブが増加している点です。地区全体の会員数も、作年の74名減に次いで、2000名から1959名に41名減となっており、コロナ禍の影響がロータリーの会員増強面に表れたことを証明しています。

また、高橋ガバナー年度と10年前の石本ガバナー年度の会員数比較でも、クラブ規模による傾向がハッキリ示され、規模が小さくなるほど会員増強に苦労しておられます。特に会員20名未満の小規模クラブでは、僅か10年間で会員が半減しているクラブが5クラブもありました。

高尾ガバナー年度に入って、会員11名でクラブ終結となった頸北クラブ、高尾年度の後半でやはり会員11名で解散決議からクラブ終結となった五泉クラブの例を見るまでもなく、規模の小さいクラブほど抜本的対策が急務であります。しかし、規模の小さいクラブの会員増強委員長の多くが今回の会員増強セミナーを欠席しておられ、今後も、これらの小規模クラブを中心に、“クラブ終結！”に進むクラブが増えるのではないかと懸念しております。

事例報告

基調講演に続き、会員増強の事例報告として、第4分区の渡邊喜彦ガバナー補佐よりコメント頂きました。

一時は会員数10名を割り込んだ巻クラブが、町の内外から広く会員増強に努め、高橋ガバナー年度には女性会員3名を含めて25名まで会員数を回復し、今後も更なる会員増強に努めたいとのことで、クラブ規模の大小を問わず、大変、参考になったと思います。

続いて、戦略計画の事例報告として、新潟西クラブの大澤 力元会長より、2018年度よりクラブ戦略計画委員会が設置された経緯と、2019-22年のクラブ戦略計画についての事例報告をしていただきました。

第1段階のクラブの現状分析に始まり、第2段階のビジョン作成、第3段階の計画作成、第4段階の進捗の確認まで複数年度にわたるため、PETSの際に実施したアンケート調査でも、当地区内で取り掛かっているクラブは、新潟西クラブを含めて17クラブと3分の一程度であります。今後、取り組みたいというクラブも18クラブあります。それらのクラブにとりましては、今回の新潟西ク

ラブの事例は、大いに参考になるものと思います。

最後に広報・公共イメージアップの具体的方策として、佐藤邦栄 2560 地区筆頭副幹事より SNS の活用により、ガバナー月信や各クラブの情報を、ロータリー関係者だけでなく、世界中の利用者に発信したいとの説明がなされました。

現時点では、SNS 活用のニーズはまだ低い状況ですが、IT（インフォメーションテクノロジー）の進歩と普及は、ロータリー活動にも大きく影響をもたらしています。既存の広報媒体も大切ですが、IT 活用の広報活動の頻度を高めることで、地区内クラブの活動状況を随時発信することが可能となり、地域社会におけるロータリーの公共イメージアップが図られ、特に若い世代に対する会員増強に結び付くものと期待しております。

分區別ブレインストーミング

コーヒードリンクをはさんで、各分区毎にガバナー補佐の司会のもと、ブレインストーミングを実施いたしました。「コロナ禍や、ロシアのウクライナ侵攻が長引く中、会員増強を効果的に実施する具体策」について、約 60 分。熱心な意見交換が交わされましたが、こうした情報交換の蓄積が、今後の各クラブの会員増強に結び付くものと確信して、報告を終わります。





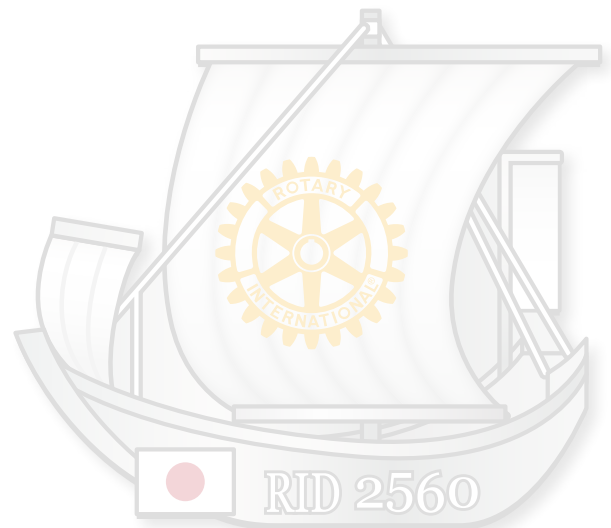
パンデミックを縁として 新しい時代へ

国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 地区青少年奉仕委員長
関根 功雄 (白根 RC)

高橋年度地区青少年奉仕委員長を拝命しました、関根功雄と申します。2018-19 年度よりローターアクト委員会に出向し、3 年目で委員長、2021-22 年度から青少年奉仕委員会へ、5 年間青少年奉仕活動に携わって参りました。その間 COVID-19 によりインターアクト、ローターアクトともに例年通りの活動ができず、また青少年交換は 3 年間交換中止と、活動すらできない状況でした。インターアクトは中高生、ローターアクトは 35 歳まで、青少年交換は高校生と、青少年奉仕には年齢制限があります。青少年交換に参加を希望しても、行くチャンスが全く無かった高校生もいらっしゃったでしょう。日本だけでなく世界中の青少年が COVID-19 によって多大なる影響を受けた年代だと思います。

反面、新しい技術や方式を取り入れることが得意な年代でもあり、当たり前のようにオンラインを利用した例会を開催し、パンデミック 1 年目のローターアクトの地区大会、大納会はオンライン開催、高尾年度の RYLA 研修と高橋年度のインターアクト年次大会は、1 日開催でしたが、オンラインを利用して行われました。パンデミックを縁として、新たな挑戦を続けております。

今後高橋年度年初で定めた基本方針に基づいて活動していくわけですが、特に会員増強と、新たなインターアクトクラブ、ローターアクトクラブの設立に重点を置いて活動して参ります。青少年奉仕委員会へのご支援を宜しくお願いいたします。





2023-24 年度 米山記念奨学制度説明会ご報告

国際ロータリー第 2560 地区

2022-23 年度 米山記念奨学委員会

委員長 **渡邊 嘉子** (新津中央 RC)

皆様には日頃より、米山記念奨学事業へご理解・ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

2023-24 年度「米山奨学制度説明会」を 8 月 5 日（金）ホテルオークラ新潟に於きまして、県内 14 の大学・高専の担当者をはじめ、高橋ガバナー・米山エレクトよりご出席頂き開催いたしました。

はじめに高橋ガバナーよりご挨拶いただき、米山奨学事業について大学側またロータリアン両方の立場から思うところをお話しいただき始まりました。次に私より近年他地区では奨学生の義務を守らず奨学金の辞退・打ち切りがあることを担当者の皆様に説明をしまして、学内選考の際には必ず学生に確認していただきたいとお願いをいたしました。

続きまして米山奨学事業を大学担当者の皆様にもご理解をしていただく為に「米山梅吉翁・米山奨学事業の成り立ち」のビデオを見ていただいた後、小林選考委員長より「米山記念奨学事業について、応募・選考について、奨学生の義務、世話クラブ・カウンセラー制度について、学友・学友会等」の説明をし、米山奨学生としてふさわしい学生を学内選考していただきたいことを説明いたしました。



終わりに米山ガバナーエレクトより、挨拶として米山カウンセラーの経験談をしていただき説明会を終了いたしました。

米山記念奨学事業は皆様もご存じの通り、ロータリアン（世話クラブ・カウンセラー）と奨学生との交流を通して、異文化理解や、またより深く日本を知ってもらい、心と心のふれあいを通して真の国際交流を、将来日本と母国・世界を結ぶ架け橋となる人材を育てることを目的としています。

米山奨学金を希望する学生は大学での学内選考で選ばれて、応募します。

学業の優秀さはもちろんですが、勉強ができるだけでなく人柄も良くロータリアンと交流のできる学生を学内選考し推薦してもらい、次に地区で選考・合格をして米山奨学生として皆様と交流をしています。

学業優秀で人柄も良い、ロータリアンにまたクラブに愛される学生を選考できるように努力して参ります。是非とも米山奨学生を暖かく見守り、育てていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

2023-24年度の米山記念奨学生募集が始まりました。

今後ともロータリアンの皆様には米山記念奨学事業にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。





国際奉仕委員会委員長 挨拶

国際ロータリー第 2560 地区

2022-23 年度 国際奉仕委員会

委員長 徳永 昭輝 (新潟 RC)

コロナ感染がまだ終息していない状況下で国際活動を行うことは色々な制約もありますが、国際奉仕委員会は、各クラブが国際奉仕活動に取り組めるように情報提供などの支援を行います。昨年度は5月に、高橋年度では8月に、クラブ国際奉仕委員長を対象に「国際奉仕フォーラムディスカッション」を行いました。

国際奉仕活動を実施するためには、現地に①現地に詳しい人の援助、②海外友好クラブ・姉妹クラブ、米山奨学生やグローバル補助金で海外留学を援助した学生などとの連携が一つのきっかけになるのではないか、③十分支援内容の検討をし、すでにグローバル補助金活動に取り組んでいるクラブとの共同事業に参加することなど、会員数が少ないクラブでも国際奉仕活動に取り組むことは出来るのではないかと考えています。

高橋年度では、ウクライナ支援活動も委員会の基本方針としました。ロシア進行に始まり悲惨な戦闘状態は6カ月に及びます。国際ロータリーの世界有事の際のロータリーの責務として、ロータリーは中立の立場にあり、当該国のロータリークラブとロータリアンは、それぞれの国法を遵守しなければならず、これらの国々の間では友情や親睦を築くことは困難になりますが、ロータリー章典



26.020. に「ロータリーと政治」について記載があります。有事の際には限界もありますが、それぞれの立場で支援活動ができるような情報提供をしていきます。

コロナ感染、国外政情が不安定な状況下で、高田 RC は国際奉仕特別会計を活用し、グローバル補助金申請が困難の中で「スリランカアイバンク協会支援事業」として①コロナウイルス抗原キット、②角膜保存・郵送用梱包材などを送る活動を行っています。新潟 RC でも政情不安で交流が困難の中、ミャンマー医療支援として寄贈した超音波診断装置のメンテナンス費用を地区補助金とクラブの資金を使って支援し、現地での超音波診断装置の使用状況などを調査し報告を行っています。また、新潟西 RC の活動として、過去にスポンサーを務めた地区奨学生（タイへ留学）との繋がり、昨年度グローバル補助金申請が行われ、タイ国「ドイ・ジョラケ丘陵の環境保全」のための活動をされています。

国際奉仕委員会は地区内のクラブの活動について情報提供を行っています。多くのクラブが国際奉仕活動に目を向けてみてください。

高橋年度では、メルボルンで開催される「国際大会（2023.5.26. ～ 6.1.）参加ツアーを企画しています。多くのロータリアンが参加できるように情報提供をまいります。

宜しくお願い致します。





要 ～そして未来へ

三条ローターアクトクラブ
会長
川越 健矢

まずもって先日7月23日に行われました三条 RAC 創立 50 周年記念式典に多数のロータリアンの皆様よりご登録いただきました事、改めて感謝申し上げます。

本来であれば三条 RAC の 50 周年は 2 年前に開催する予定ではありましたが、COVID-19 の第 1 波の影響により延期となっておりました。延期となった 2 年間、様々な葛藤がありました。いつまで延期とすればよいのか。開催してクラスターを出してしまわないか。本当に開催する意味があるのか。我々にとってこの 2 年間はまさに葛藤の 2 年間でした。

準備をしたくとも、集まる事すら難しい中、感染状況が落ち着くまで耐える事しかできませんでした。

そんな状態の中、我々は何の為に周年式典を開催するのかクラブ会員で何度も話し合い、一つの答えを出しました。それが大会テーマとなりました「要 ～そして未来へ」です。

テーマの意味としては三条 RAC の要となっている活動を再認識し、60 年 70 年とクラブを続けていって欲しいという願いを込めました。

開催する事が困難状況ではありましたが、これまで 10 周年～ 40 周年まで開催してきた事を我々の代でやめたくないという強い気持ちを持ち、何とか開催する事ができました。

改めまして、三条 RAC 50 周年開催に際し、ご支援ご協力を頂きました全ての皆様に感謝申し上げます。



第 2560 地区 2022-23 年度 7 月末 会員数報告

R C	例 会 数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数			
			2022年 7月1日	7月末 会員数	うち女性	増減
第1分区 (9クラブ)		-	372	378	35	6
新発田	3	31.5%	88	89	0	1
村上	3	20.5%	38	39	9	1
水原	3	24.2%	33	33	1	0
中条	4	91.5%	44	47	3	3
新発田城南	4	21.1%	38	38	3	0
豊栄	3	17.4%	23	23	2	0
新発田中央	3	4.4%	45	45	4	0
中条胎内	4	52.8%	36	36	7	0
村上岩船	3	25.0%	27	28	6	1
第2分区 (9クラブ)		-	426	439	28	13
新潟	3	26.2%	79	84	2	5
新潟東	5	19.0%	63	63	8	0
新潟南	4	32.4%	108	112	4	4
佐渡	3	80.0%	5	5	0	0
新潟西	4	47.5%	38	40	2	2
佐渡南	2	12.8%	38	39	4	1
新潟北	3	27.0%	35	37	1	2
新潟中央	3	44.4%	18	17	0	-1
新潟万代	3	52.4%	42	42	7	0
第3分区 (5クラブ)		-	89	92	5	3
新津	4	11.1%	18	18	1	0
村松	4	50.0%	10	12	0	2
白根	4	30.0%	30	30	1	0
新津中央	4	38.5%	26	26	3	0
阿賀野川ライン	4	0.0%	5	6	0	1
第4分区 (11クラブ)		-	350	360	25	10
三条	4	10.9%	55	57	0	2
燕	4	8.6%	33	33	2	0
加茂	4	6.1%	32	32	4	0
三条南	3	17.1%	35	37	2	2
分水	3	79.3%	29	29	4	0
見附	4	4.8%	21	21	1	0
吉田	3	3.6%	28	28	3	0
三条北	4	9.1%	54	55	2	1
巻	2	0.0%	25	26	3	1
田上あじさい	4	14.3%	6	6	1	0
三条東	4	5.6%	32	36	3	4

R C	例 会 数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数			
			2022年 7月1日	7月末 会員数	うち女性	増減
第5分区 (7クラブ)		-	288	292	26	4
長岡	3	75.6%	44	45	3	1
柏崎	3	2.4%	40	41	0	1
長岡東	3	26.9%	52	52	4	0
柏崎東	3	18.2%	43	44	3	1
栃尾	4	13.6%	21	22	1	1
長岡西	4	20.4%	49	49	3	0
柏崎中央	3	23.1%	39	39	12	0
第6分区 (6クラブ)		-	116	116	12	0
十日町	3	29.0%	31	31	4	0
小千谷	4	10.7%	28	28	4	0
雪国魚沼	4	20.0%	25	25	3	0
十日町北	3	0.0%	14	14	0	0
津南	3	25.0%	12	12	1	0
越後魚沼	3	16.7%	6	6	0	0
第7分区 (7クラブ)		-	313	316	22	3
高田	4	33.3%	70	72	4	2
直江津	3	28.8%	72	73	6	1
新井妙高	3	11.8%	35	34	1	-1
糸魚川	3	69.0%	41	42	3	1
高田東	3	68.6%	35	35	3	0
糸魚川中央	4	55.6%	27	27	0	0
越後春日山	4	93.9%	33	33	5	0

クラブ数	54 クラブ
7月1日会員数	1,954 人
7月末会員数	1,993 人
女性会員数	153 人
純増減会員数	39 人
My Rotaryアカウント登録率	28.9 %

※6 月末からの訂正
 6 月末日会員数
 直江津 RC 【73 名(うち女性 6 名)⇒ 72 名(うち女性 6 名)】
 ※7 月 1 日会員数は、
 2022/7/1 00 時 00 分時点の RI の数字を表しています。

地区主要行事予定

2022年8月24日現在

年	月	日	行 事	会 場	
2022年 (R4) 高橋年度	9月	会員増強・新クラブ結成推進月間			
		3	(土)	第5分区IM (品田G補佐・柏崎)	市民プラザ
		5~6	(月~火)	ガバナーエレクト研修セミナー (GETS)	グランドプリンスホテル新高輪
		7	(水)	次年度の地区研修リーダーのためのセミナー (DTLS)	グランドプリンスホテル新高輪
		10	(土)	第4分区IM (渡邊G補佐・巻) →来年4/15に延期	ホテル富士屋
		11	(日)	米山ガバナーエレクト事務所開所式	饒心亭おゝ乃
		11	(日)	アクトの日	東区プラザ 調理室
		27	(火)	高橋年度 地区大会記念親睦ゴルフ大会	紫雲ゴルフ倶楽部
	10月	基本的教育と識字率向上月間・ロータリーの友月間			
		4	(土)	第1回米山記念奨学委員長セミナー	ホテルイタリア軒
		1	(土)	第3分区IM (室賀G補佐・白根)	
		8	(土)	第1回米山記念奨学委員長セミナー	ホテルオークラ新潟
		8	(土)	第2分区IM (森田G補佐・新潟南) →延期	ホテルオークラ新潟
		15	(土)	第1分区IM (須貝G補佐・中条)	
		22~23	(土~日)	全国学友会総会	鎌倉パークホテル
		22	(土)	第7分区IM (本山G補佐・高田)	デュオ・セレッソ
		23	(日)	ライラ研修	新潟市新津地域交流センター
		29	(土)	第6分区IM (富山G補佐・雪国魚沼)	ホテル坂戸城

【新入会員】

(敬称略)

RC	氏名	入会日	会社名	役職	職業分類
栃尾	齋藤 千香子	2022.07.01	三大商事(株)		葬祭業
佐渡南	風間 智弘	2022.07.01	(株)ユアテック佐渡営業所	営業所長	電気工事
新潟北	小林 浩	2022.07.04	(株)新日不動産	専務取締役	不動産売買
三条北	田崎 尚志	2022.07.05	セーブ・インダストリー(株)	代表取締役	生活日用品卸
新潟	小山 章司	2022.07.05	(株)テレビ新潟放送網	代表取締役社長	商業放送
村松	渡邊 正志	2022.07.05	(株)デンコー	代表取締役	電気工事業 ※五泉RCより移籍
村松	貝瀬 康弘	2022.07.05	(株)早出川建設	工事部課長	建築資材販売
新潟南	金井 利郎	2022.07.06	金井度量衡(株)	代表取締役	コンサルタント
新潟南	権平 敬一	2022.07.06	(株)権平工作所	代表取締役	機械製造
新潟南	金子 専	2022.07.06	(株)ウィズダム	代表取締役	組織・人材コンサルティング事業
巻	遠藤 隆一	2022.07.07	(株)オーシャンビュー五ヶ浜	代表取締役	介護福祉
三条東	有本 一幸	2022.07.07	S.A Transport	代表	陸送業
三条東	五十嵐 亘	2022.07.07	(株) i.design	代表取締役	総合看板業
三条東	金子 崇	2022.07.07	株式会社シマキユウ	支店長	機会工具販売
三条東	田村 亮	2022.07.07	(株)サミット	代表取締役	損害保険代理店
新潟	川瀬 直也	2022.07.12	日本放送協会 新潟放送局	局長	全国放送
新潟	榎本 隆克	2022.07.12	東北電力(株)新潟支店	執行役員新潟支店長	電力供給
新潟南	清水 裕一	2022.07.13	(株)グリーンハウスシミズ	代表取締役社長	建設業
加茂	堀内 大祐	2022.07.14	(株)堀内組	代表取締役社長	建設
新潟西	宮崎 誠	2022.07.14	(株)ホテルオークラ新潟	代表取締役社長 総支配人	ホテル
村上	本間 睦	2022.07.14	東北電力ネットワーク(株)村上電力センター	所長	電力供給業
新潟	江越 誠	2022.07.19	岡三にいがた証券(株)	代表取締役会長兼社長	証券業
新潟	高山 克幸	2022.07.19	新潟信用金庫	常務理事総合企画部長	信用金庫
新潟西	関 朋生	2022.07.21	Nサポート協同組合	代表理事	サービス業
三条南	大原 知弘	2022.07.25	(株)大原電機商会	専務取締役	電気設備工事
三条南	峰嶋 由紀子	2022.07.25	六花	経営者	一般飲食
新潟北	古賀 生治	2022.07.25	明治安田生命保険(相)新潟支社	支社長	保険業
雪国魚沼	鈴木 彰一郎	2022.08.03	(株)オオギ産業	代表取締役	卸・小売

【訃報】

(敬称略)

RC	氏名	逝去日	会社名	役職	職業分類	経歴・その他
新井妙高	恩田 晴夫	2022.7.25	株式会社オング建築デザイン事務所	代表取締役社長	建築設計	
新潟中央	池田 忠彦	2022.7.31			工業用計器配布	1998~1999年度会長



第1地域 ロータリーコーディネーター補佐 福井 敬悟 (札幌手稲)

ポール・ハリス語録から「ロータリーの原動力は友情です」「ロータリーは友情の扉です。みんなのために扉を開け放ちましょう」

親睦と奉仕はロータリーの基本ですが、全てのロータリアンが世界中あらゆる分野で Fellowship を拡大することが、世界の平和の礎を築くことに貢献します。

今月はロータリー親睦活動月間ではありませんがクラブの枠を超えた活動を3つご紹介します。

1つ目は若くてパワフルな力、ローターアクトの活動です。2022年9月3日～4日 北海道赤平市にて、「D2580・東京ワセダ RAC」「D2680・豊岡 RAC」「D2510・赤平 RAC」の3つのローターアクトクラブが合同例会を企画しました。内容は「みつばちホテル製作」等、みつばち保護を中心とした、自然環境保護への活動です。

まさに DEI を大切に、国際奉仕 PJ です。日本での「みつばち」への取組は 2680 地区が力を入れており、第 34 回全国 RAC 研修会でも発表されました。今回の例会講師は、D2680RAC の阪本渚子さん、木本千春さんです。このように地区やエリアを超えて共に活動することも、Imagination が更に豊かになり、Realization が実ると体験できます。(D2510 赤平 RAC 長谷川大介記)

2つ目は世界のロータリアンのスキー愛好家が集う ISFR (International Skiing Fellowship of Rotarians)です。

1974年に創立され、今や会員数は500名を超える世界組織。この度、日本で初めて支部を設立し、スキー大会を日本に誘致することが決まりました。世界中のロータリアンとスキーを楽しみ、パーティーやイベントを通じて親交を深める、そんな一週間が日本で実現します。今シーズン、D2510・倶知安 RC の協力を得て、ニセコで開催予定です。

たまたま知り合ったアリソンさん(米 Ames RC)が ISFR の会長だと知り、日本で開催しようと意気投合、幾多の調整を重ねてここまでやってきました。世界のロータリーを体験できる取り組みの一つとして、皆様にご参加頂けることを楽しみにしています。詳細は近日中に公表予定です。(ISFR 日本支部支部長・日本誘致責任者 吉田弘和 東京麹町 RC 記)

3つ目は世界のバイク愛好家が集まる International Fellowship of Motorcycling Rotarians(IFMR)です。

2021年8月1日 IFMR に登録し、日本支部を北海道に設立。Facebook に例会案内、活動をアップして広報活動をしています。北海道はバイクに乗れる期間は半年程ですが、春夏秋、自然に恵まれた広大な大地をダイナミックに駆け巡る事ができるライダーにとって憧れの快走ツーリングスポットです。昨年は新型コロナウイルスの蔓延で1回の例会でシーズンを終えましたが、2022年は会員も60名程となり地区を超えた合同例会を開催して親睦を深めています。8月には D2720 大分キャピタル OliOli ロータリー衛星クラブメンバーが来道し合同のツーリングが行われます。今後は、北海道のみならず全国各地での例会を行うなどロータリアンライダーのプラットフォームになるよう活動します。(D2500 PDG 松田英郎記)

ロータリーは例会を通して、お互いに切磋琢磨し、自己研鑽することでロータリーの説く本来の親睦が一層深まることが重要ですが、ロータリーの活動はクラブの枠を超えた友情に基づく世界的なネットワークの中で育まれる奉仕活動、親睦活動に目を向けて頂ければと思います。



3 地域合同「公共イメージ向上オンラインセミナー」報告



第1地域 ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 寺嶋 哲生（柏 RC）

2022年7月30日 Zoomにて3地域合同による「公共イメージ向上セミナー」が開催されました。各地区ガバナーや公共イメージ向上委員長始め、地域コーディネーターと同補佐、日本事務局を含む総勢約150名の参加を頂きました。

冒頭、佐藤芳郎 RI 理事から「全地区・全クラブがポリオデーに趣向を凝らしたイベントを開催してロータリーのブランドイメージの向上を目指し、再び日本単独で3つのゾーンを復活させよう」とのご挨拶を賜りました。次いで、R2 服部陽子 RPIC から「公共イメージの重要性」・R1 井原実 RPIC から「ロータリーブランドとロゴの重要性」・R3 丸尾研一 RPIC からストーリーテリング「私とロータリー」と題する講話を頂きました。

続いて「世界ポリオデーに向けての取組」と題して具体的な事例の発表が行われ、R2 桑澤一郎 ARPIC から「世界ポリオデーのポータルサイト」・R3 深尾兼好 ARPIC から「ポリオ根絶フォトコンテスト」に関する説明を頂きました。

更に各地区で企画されている事例として、2720 地区堀川貴史ガバナーから「熊本マチナカ音楽祭」・2750 地区田嶋諒一実行委員長から「END POLIO Bicycle Campaign 2022」・宮崎陽市郎ガバナーエレクトおよび R2 神野正博 ARPIC から「END POLIO Cycling Challenge 2750」・2770 地区橋本和久実行委員長から「第2回ポリオ根絶チャリティークラシックカーラリー」・2600 地区片貝雅彦実行委員長から「信州ブレイブウォリアーズ戦応援とポリオ根絶」についての紹介を頂きました。

質疑応答の時間では、2760 地区伊藤靖祐 R2 ARRFC からポリオデーに行く事業の目的についての問いかけがあり、それに対して佐藤芳郎 RI 理事・三木明 TRF 管理委員から「公共イメージの向上と共にファンドレイジングである」とする旨のご示唆を頂きました。

セミナーの最後に三木明 TRF 管理委員から講評を賜り、充実したセミナーを実施した主催者に対する謝辞と共に、「改めてロータリーには具体的な行動が求められている事を実感した」とのお言葉を頂きました。

参加者からは、公共イメージの向上の必要性に対する理解が進み、ポリオデーの企画立案に関する有益なヒントを得られたなどの感想が寄せられ、充実したセミナーを実施できたものと思われま



第3地域 RRFCC の抱負



第3地域 ロータリー財団地域コーディネーター 永田 壮一（熊本城東 RC）

今年7月から2年目の第3地域 RRFCC を迎えました。1年目の RRFCC 就任前にズームによる RLGI (Regional Leaders Global Institute) を受講し、地域リーダーの役目を履修し、3名の ARRFCC を任命させていただきました。

ロータリー財団地域コーディネーターはロータリアンが財団補助金による奉仕に積極的に参加し、寄付目標を達成できるように支援し、ロータリーの最優先事項であるポリオプラスに対しポリオ根絶コーディネーター (EPNC) と協力してポリオ根絶活動に対する認識を深め寄付を呼びかけること、の3つが主な役割です。

昨年度は、コロナ蔓延の中、皆様にはロータリー活動が多く制限されました。さらに2月にはロシアによるウクライナ侵攻もあり、かつて私たちが経験したことのないような大きな出来事が起こってしまい、未だ継続中があります。この中にあり、ロータリー財団が4月30日までウクライナ専用としたロータリー災害救援基金への支援は1,500万ドルを超え、日本からも300万ドルを超える寄付が集まりました。本当にありがとうございました。このような緊急事態の中でも多くの支援活動が行われることは、やはりロータリアンの持つ5つの中核的価値観の賜物だと感激した次第です。ウクライナへの人道支援にはまだ余裕があります。ぜひ各地区で人道支援のご検討をいただければと思います。

さて、今年度は佐藤 RI 理事の号令一下、10月24日の「世界ポリオデー」に向けて各地区で様々な趣向を凝らしたイベントが考えられています。この中で、やはり今までと少し違った動きが大きな潮流になろうとしています。それは、各地域でロータリーコーディネーターチーム、ロータリー公共イメージコーディネーターチーム、ロータリー財団地域コーディネーターチーム（ポリオ根絶コーディネーター、恒久基金/大口寄付アドバイザーを含む）が横の連絡を取り合って、担当の地区や地区内クラブを支援する動きが大きくなってきていることです。もとより、各コーディネーター、コーディネーター補佐の皆様は素晴らしい地域リーダーの方ばかりです。地域コーディネーターが一緒になって日本のロータリーをさらに大きく発展させていくことができれば嬉しい限りです。

最後に、昨年は第3地域の年次基金寄付額は前年比+23%でした。今年はさらに伸ばして参ります。また、残念ながら「年次基金寄付ゼロクラブゼロ」が第3地域において達成できませんでした。今年は必ず達成できることをお約束して抱負といたします。



1. 各地で学友会総会が開催

新年度になり、各米山学友会では続々と総会が開催されています。

7月3日には、関西米山学友会が「YONEYAMA HARMONY～新しい未来への調和～」をテーマに学友会総会を開催し、203人が集まりました。3年ぶりに対面で開催された今総会では、学友会の活動報告に加え、新規奨学生を紹介。学友によるレクイエム音楽祭の演出では、世界平和を祈願する演奏、踊りを披露するなど、同学友会の総会は大盛況となりました。また、ウクライナ学友が在籍する教育財団への寄付が集められ、世界平和への想いととも贈られました。

今総会で任期満了となった関スラ会長（大阪うつぼRC）は、「関西米山学友会のスローガンは、私が会長として務めさせていただいた2年間の、「日本から世界へ、世界から日本へ」から、「YONEYAMA HARMONY」に変わります。過去・現在・未来をつなぐ世代の調和、そして、人と人との調和を通じて米山の強化・拡張

を図ることで、より積極的な活動につながることを期待しております。多くの変化を迎える意義深い時間を、多くの米山ファミリーとご一緒できて、とても嬉しかったです。私たちが笑顔で過ごした時間は、これからの1年間の活動に大きな力になってくれると思います」と、述べました。



2. 2023 学年度奨学生の募集を開始

来年4月採用の新規奨学生募集が始まりました。各地区の米山記念奨学委員会が選定し、当会選考・学務委員会と常務理事会の承認を経た指定校は、全国で569校（前年度564校）。指定校からの被推薦者数は1,901人（同1,804人）で、この中から新規奨学生約620人が選ばれます。今回、初指定校は9校。また、6地区が例会に通える範囲の地区外の大学を指定。大学・大学院以外を対象とする地区奨励奨学金は、13

地区（同13地区）33校（同33校）となりました。各地区米山奨学委員会では毎年、学校説明会や担当者との懇談を行い、事業の目的に合う多様な人材を採用しようと努力しています。当会からは8月4日に、全指定校に宛ててメールで通知しました。指定校からの応募締切は例年通り、10月15日となります。

※指定校一覧、募集要項・申込書式は、当会ホームページにて公開しています

3. 寄付金速報 — 2022-23年度の始まりは？ —

2022-23年度の寄付金スタートは2億1,100万円、前年度と比べ約150万円の増加（普通寄付金:1.5%増、特別寄付金:1.3%減）となりました。新型コロナウイルス感染症が蔓延し始めた2019年度以降、初めて7月の寄付額で前年度を上回り、久しぶりに前年度増の数字で新年

度のスタートを切ることができました。感染症の収束がなかなか見えない昨今ですが、皆様の変わらぬご支援に厚く御礼申し上げます。今年度も、引き続きご協力賜りますようお願いいたします。

4. ベトナム学友グループが2年ぶりに活動を再開

6月11日、背中に「超我の奉仕」の文字を刻むシャツを着て、ベトナム・ホーチミンの学友グループが2年ぶりに活動を再開しました。当日は7人のメンバーと、その家族を含めた総勢9人が参加し、4カ所の児童養護施設を訪問しました。



寄付したのは、インスタント麺13箱、お米75kg、調味料などの生活必需品、おむつ、牛乳、洗濯用洗剤、食器用洗剤、炊飯器(大:1個、小:2個)、フライパン、扇風機、アイロンなどの家庭用品、小学1年生用の教科書、子供用の衣類などです。また、パソコンとプリンターが今後寄付される予定とのことです。

参加したメンバーは、「久しぶりに施設に訪問して、子どもたちに会えました。子どもたちと言っても、小学生から大学生まで、年齢の幅は様々です。会うのは2年ぶりでしたが、今でも子どもたちの、幼い頃の可愛い表情をよく覚えています。今回、私たちは愛情とエネルギー全開で、子供たちの身の回りのすべてをお世話させていただきました。私たちにとって大切な一日のために、入念に準備して下さった施設の皆さまに心から感謝します」と、述べました。

5. 「再会 in 関東」開催まで1年

第3回米山学友による世界大会「再会 in 関東」がいよいよ2023年8月に開催されます。この大会は2年に1回、米山学友会の主催で行われるもので、今回も世界の米山学友が集い、ロータリアンとの絆を深める企画が盛りだくさん！来年8月に向けて、日本国内の各学友会による「チャリティー奉仕リレー」も始まります。ロータリアンを対象とする募集企画もありますので、ぜひ参加をご検討ください。

日程：2023年8月5日(土)・6日(日)

8/5

10:00～ポスター発表(学友会活動・ビジネス紹介)

14:30～17:30 本大会(百人合唱祭など)

18:30～21:30 晚餐会

8/6

9:00～18:00 奉仕活動&文化体験

会場(5日).....つくば国際会議場、ホテルグランド東雲

登録料.....ロータリアン(ロータリアン学友含む)とご家族 ¥15,000、
米山学友・奨学生 ¥7,000、そのほか学友のご家族、友人など¥7,000

登録方法.....来年から正式に登録用紙を配信する予定です

問い合わせ先.....世界米山学友による「再会 in 関東」実行委員会(yoneyamaworld@gmail.com)

※上記プログラム中の「ポスター発表(ビジネス or ご自身の活動紹介)」と「百人合唱祭(できれば元奨学生を誘ってペア参加)」はロータリアンからもご参加を募る予定です